

令和4年度「大学生の力を活用した集落復興支援事業」
天栄村二岐地区における実態調査 報告書

郡山女子大学短期大学部
地域創成学科1年 有志グループ

令和5年2月

目次

1. はじめに	3
2. 天栄村及び二岐地区の概要	4
2.1 天栄村の概要	
2.2 二岐地区の概要	
3. 活動内容	6
3.1 活動スケジュール	
3.2 第1回現地調査 現地見学と交流	
3.3 第2回現地調査 インタビュー調査	
3.4 第3回現地調査 ワークショップ	
4. 二岐地区の魅力と課題	12
4.1 二岐地区の魅力	
4.2 二岐地区の課題	
5. 課題解決のための提案	14
5.1 提案① 地域散策マップと広報	
5.2 提案② 地域イベントの運営支援	
6. おわりに	15

1. はじめに

令和4年度「大学生の力を活用した集落復興支援事業」に対して、郡山女子大学短期大学部 地域創成学科1年生の有志で申請した。その結果、天栄村二岐地区を対象地域として実態調査を委託されることとなった。本報告書は、調査内容と集落の活性化に向けた提案を報告するものである。

グループメンバーは、郡山女子大学短期大学部 地域創成学科1年生の有志11名で構成されている。地域創成学科では文化・歴史系、アート&デザイン系、ビジネス・情報系の3つの分野について学生の興味・関心に応じてカリキュラムを選択できる。各学系において専門性を高めるとともに、学系を横断した柔軟な学びを展開できる。今年度はアート&デザイン系、情報・ビジネス系を中心とする学生が参加した。

グループメンバー：

名前	所属	備考
白石 優花	地域創成学科1年	代表
熊田 彩那		
安齋 海		
福島 百華		
佐藤 樹音		
三好 亜実		
宇南山 舞桜		
八久保 彩音		
笠間 彩		
阿部 莉奈		
山形 入望		

※教員：小松 太志（地域創成学科）

2. 天栄村及び二岐地区の概要

2.1. 天栄村の概要

1955年(昭和30年)に湯本村、牧本村、大里村、広戸村が合併し、現在の天栄村となる。天栄村の名前は、村の中央部の天栄山に由来する。

天栄村は、福島県の南部、中通り地方に位置する。東西に伸びた形が特徴で、東に阿武隈山地、西に下郷町、北に会津若松市、郡山市、須賀川市、南は白河市に接する。古くは会津地方と中通り地方を結ぶ交通の要衝であった。面積の80%を国有林が占めており、山や川などの自然豊かな村である。村の中央には太平洋と日本海に注ぐ鳳坂峠の分水嶺があり、ここを境として気候・風土も東西で二分される。

東部地区は天栄村の代表的な農産物である「天栄米」「天栄長ネギ」「天栄ヤーコン」の産地である。西部地区は県立自然公園に指定される山々に囲われる。羽鳥湖や二岐山などの観光資源にも恵まれている。

- ・ 面積 225.52 平方キロメートル
- ・ 人口 5,287 人 (男性:2,674 人、女性 2,613 人)
- ・ 世帯数 1,975 世帯

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年2月1日現在)から引用。



参考文献：

- ・ 天栄村 ホームページ、<https://www.vill.tenei.fukushima.jp/>
- ・ 天栄村 暮らしのガイド、天栄村役場

2.2. 二岐地区の概要

二岐地区は天栄村西部の二岐山の麓、二岐川の溪谷沿いに位置する。会津地方と中通り地方の境界にあり、山深く自然豊かな地である。古くからの歴史ある温泉地でかつては湯治客で栄えた。開湯は969年（安和2年）に遡ることができる。平安時代には温泉が湧いていたという言い伝えもある。平家落人が隠れ住んでいたという言い伝えもあり、狼煙をあげたり、鶏を飼うことを避ける風習も残る。

現在、二岐地区では5つの旅館（大丸あすなろ荘、柏屋旅館、桂祇荘、旅館ふじや、湯小屋旅館）が経営されている。地区の居住者は旅館関係者、もしくはその家族である。

- ・ 人口 約25人
- ・ 旅館数 5 ※一般的な戸建て住居は無し



参考文献：

- ・ 二岐・岩瀬湯本・天栄温泉国民保養温泉地計画書、環境省、平成28年5月

3. 活動内容

3.1. 活動スケジュール

新型コロナウイルスの感染状況の拡大及び全国旅行支援による対象地区の業務の都合もあって、当初計画から適宜変更・調整をおこなった。

日程	項目	内容
10月	事前調査	全国の温泉地を対象として、温泉地の課題や地域振興の取り組みについて調査した。
11月29日(火)	第1回現地訪問	天栄村役場から天栄村と二岐地区に関する講義を受ける。事業の地区代表である桑名様から現地を案内していただく。
12月18日(日)	第2回現地訪問	二岐地区の各旅館の方へインタビュー調査を実施する。
1月16日(月)	第3回現地訪問	二岐地区のみなさんと天栄村役場湯本支所の職員、学生によるワークショップを実施する。

3.2. 第1回現地調査 | 現地見学と交流

1回目の現地訪問では、対象地区の理解を深めるために天栄村役場湯本支所において天栄村と二岐地区に関する講義を受け、対話を行なった。その後、二岐地区へ移動して事業の地区代表である桑名様より現地を案内していただいた。

- ・ 日程：11月29日(火)
- ・ 場所：天栄村役場湯本支所、二岐地区
- ・ 参加学生：3名（教員1名）



天栄村役場湯本支所における講義・対話



二岐地区の現地見学

3.3. 第2回現地調査 | インタビュー調査

2回目の現地訪問では、二岐地区の5つの旅館の代表者へインタビュー調査を行なった。学生4名で1グループとして2グループに分かれて実施した。インタビュー担当は2名（主・副）、静止画撮影担当1名、動画撮影担当1名とした。

- ・ 日程：12月18日(日)
- ・ 場所：二岐地区
- ・ 参加学生：8名（教員：1名）

インタビュー調査の概要は以下の通りである。

▼ インタビュー対象：

- ・ 二岐地区の旅館代表者5名。※大丸あすなろ荘、柏屋旅館、桂祇荘、旅館ふじや、湯小屋旅館から各1名。

▼ インタビュー形式：

- ・ 非構造化インタビュー
- ・ インタビュー時間は各30～60分。

▼ インタビューの目的：

- ・ インタビュー調査をもとに分析を行い、今後に予定しているワークショップの論点を絞るとともに、地域活性化のアイデアを考える足がかりとする。

▼ インタビュー内容：

- ・「二岐地区の魅力」、「二岐地区の課題」、「二岐地区の将来」について、対話形式で聞き取りを行なう。3つのテーマに対して、生活や経済、文化、歴史などの多様な視点から話を聞く。



大丸あすなろ荘



柏屋旅館



桂祇荘



旅館ふじや



湯小屋旅館

後日、インタビュー内容は文字起こしを行ない、キーワード抽出等を行なった。その結果の一部は、「4章 二岐地区の魅力と課題」に記載している。

3.4. 第3回現地調査 | ワークショップ

3回目の現地訪問では、地図を使用して地域の魅力的な場所を再発見するためのワークショップを実施した。はじめに二岐地区、天栄村役場、学生の代表者から挨拶があり、参加者の自己紹介とアイスブレイクセッションを行なった。その後、2つのグループに分かれてワークショップを開始した。

- ・ 日程：1月16日(月)
- ・ 場所：天栄村湯本支所
- ・ 参加学生：6名（教員：1名）

※二岐地区から7名、天栄村役場湯本支所から1名がワークショップに参加。

ワークショップの概要は以下の通りである。

[目的]

- ・ 地域の魅力的な場所を再発見する。
- ・ 住民相互で情報共有を深める。

[時間]

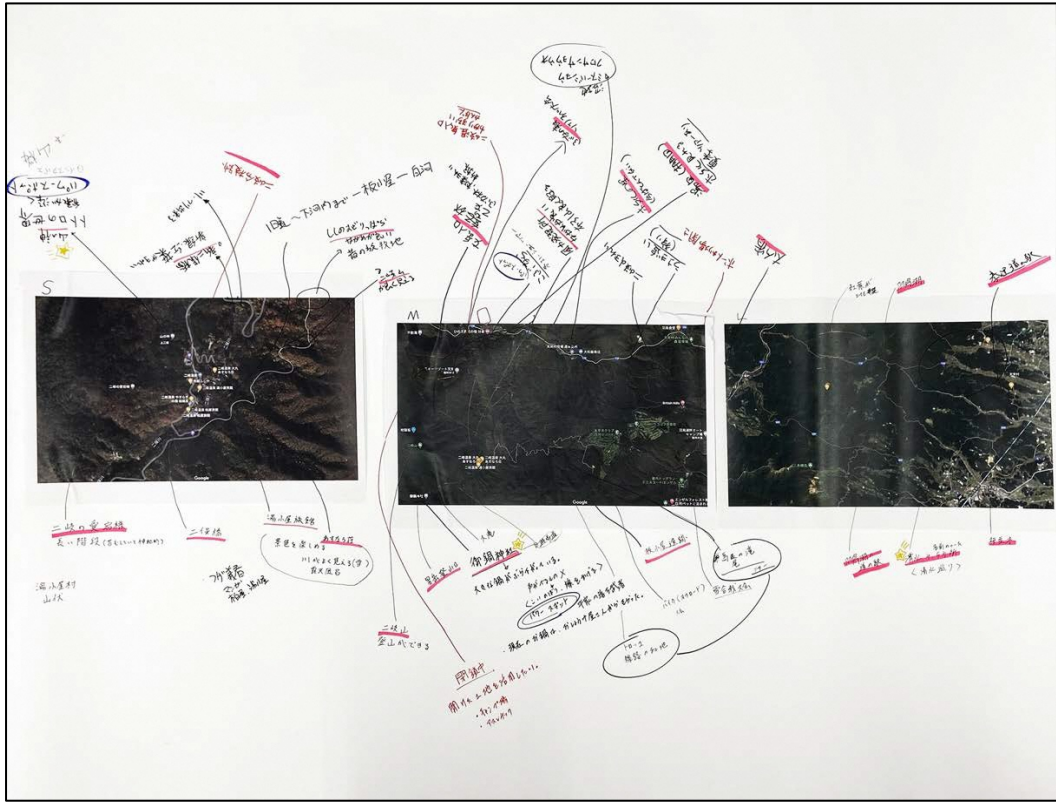
- ・ 150分（休憩10分含む）

[手順]

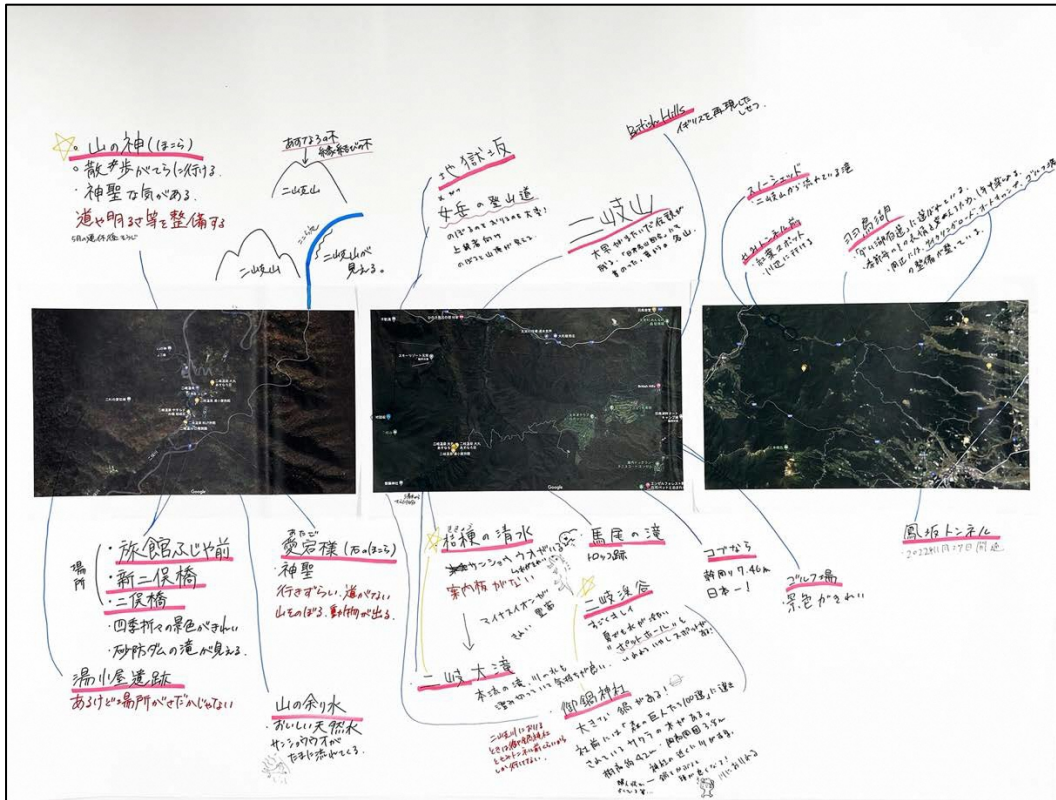
- ・ 二岐地区を中心とした縮尺の異なる3つの地図を用意する。
- ・ はじめに縮尺の大きい地図を使用して、グループで話し合いながら地域の魅力的な場所をマッピングする。その際、学生メンバーはその場所の特徴について詳しく話を聞く。
- ・ 他の縮尺地図でも同様にマッピングを行なう。
- ・ 3つの地図を俯瞰して、追加する場所があればマッピングする。
- ・ ワークの中で特に話が盛り上がった場所や印象的だった場所を3箇所挙げる。
- ・ 参加者全員が集まり、各グループのピックアップした3箇所について、ピックアップした理由も含めて説明する。
- ・ 参加者全員でワークショップの感想を述べて振り返りを行なう。



ワークショップの様子



A グループの地図



B グループの地図

下表はワークショップでマッピングされた場所をリスト化したものである。★マークは、各グループでピックアップした場所を示している。

グループ	地図1 (縮尺:大)	地図2 (縮尺:中)	地図3 (縮尺:小)
A	湯小屋村 二岐の愛宕様 二俣橋 湯小屋旅館 あすなろ荘 山の神 ★ 新二俣橋 二岐分校跡 ししのおどりっばら	二岐山 男岳登山口 御鍋神社 ★ 板小屋遺跡 馬尾の滝 バイク大会 雪合戦大会 女岳入口 二岐温泉入口 こぶ檜 ぶなの森 風力発電所 ホタルの里 湯田(棚田) うさぎ追い	羽鳥湖の湖 清水 4~5ヶ所 ★ 桜並木 大内宿 羽鳥湖
B	山の神 ★ 湯小屋遺跡 愛宕様 山の余り水 新二俣橋 二俣橋	二岐山 地獄坂 女岳の登山道 British Hills 桔梗の清水 ★ 二岐大滝 御鍋神社 馬尾の滝 二岐溪谷 ★ コブ檜 ゴルフ場	スノーシェッド せみトンネル前 羽鳥湖 鳳坂トンネル

ワークショップは盛況に終わり、住民の方たちでも知らない場所や新たな発見があった等の感想を聞くことができた。

4. 二岐地区の魅力と課題

4.1. 二岐地区の魅力

[観光地としての魅力]

- ・ 福島県の歴史ある温泉地である。
- ・ 豊かな自然のもとに自噴泉が湧く。
- ・ 温泉の効能が豊かである。かつては湯治客で栄えていた。
- ・ 「秘湯」のイメージがある。
- ・ 豊かな自然がある。
- ・ ブナの原生林がある。
- ・ 夏場にはホテルを見られる場所がある。
- ・ 星空がきれい。
- ・ 紅葉が美しい。
- ・ 雪が多いため、雪遊びができる。
- ・ 旬の山の味覚や川魚を味わうことができる。
- ・ 旅館経営の世代交代が円滑に進んでいる。※主に 40～50 代の方が経営されている。
- ・ リピーターの観光客が多い。
- ・ つげ義春の漫画にも取り上げられている。

[居住地としての魅力]

- ・ 静かで空気が良い。
- ・ 豊かな自然がある。
- ・ 旬の山の味覚や川魚を味わうことができる。
- ・ 近隣の方から農産物のお裾分けがある。
- ・ 星空がきれい。
- ・ 質の良い温泉が近くにある。
- ・ 鳳坂トンネルが開通した（2022 年 11 月）。交通の利便性が高まった。
- ・ 40～50 代の世代が中心となり地域活動を運営している。
- ・ 自然を維持するための活動を行っている。
- ・ 旅館業を営む世帯を中心とした地域のため、一般的な過疎地域とは異なる。
- ・ 地域の方々が相互に助け合いを行なっている。
- ・ 地域の方々のコミュニケーションが取れている。
- ・ 地域に対する愛着度が高く、地域の活性化に向けて前向きな姿勢がある。

4.2. 二岐地区の課題

[観光地としての課題]

- ・福島県においても歴史のある温泉地ではあるが、県内の認知度が低い。
- ・特にコロナ以後は来客の半分以上が県外客である。
- ・雑木の管理が行き届かないため、自然の魅力が伝わりにくい場所がある。
- ・冬季に観光客が減少する。
- ・大雪の場合、自家用車利用客のキャンセルが発生しやすい。
- ・全国旅行支援が終了した後、観光客の冷え込みが懸念される。
- ・交通の利便性が良くない。
- ・近くにお土産を購入する場所がない。
- ・新規客が少ない。
- ・常連客の高齢化が進んでいる。若い世代の利用客が少ない。

[居住地としての課題]

- ・天栄村立湯本中学校の閉校（令和5年3月）。子育て世代の家族の移住が難しくなる。
- ・湯本に診療所はあるが、大きな病院がない。
- ・近くにスーパーや商店がない。必要なものがすぐに手に入らない。ただし、最近はネット通販を利用することで不便が少なくなっている。
- ・働く場所が限定される。
- ・冬季には雪が多い。毎日の除雪が必要となる。
- ・交通の利便性が良くない。
- ・地域のイベントや伝統行事を担う人手が不足している。

5. 課題解決のための提案

3回の訪問を経て、対象地区の抱える課題を具体的に把握することができた。一部の課題とされる内容は、裏を返すと地域の特質や魅力を構成していることも見えてきた。提案にあたっては、以下の項目を意識した。

[提案のポイント]

- ・ 地域の魅力を活かすこと
- ・ 観光地として活性化を促すこと
- ・ 居住地として活性化を促すこと
- ・ 学生の私たちにできること

提案のポイントを踏まえて、実証活動に向けた地域振興策を2点提案する。

5.1. 提案① 地域散策マップの制作と広報

第3回現地訪問で行なったワークショップでは、近隣の魅力的な場所を確認することができた。特に「ヒーリングスポット」や「神性を感じる場所」などの言葉が聞かれ、印象的であった。温泉地としての長い歴史を持ちながら、山深く美しい自然が残されている二岐地区ならではの場所をあらわす言葉の表現である。以上のことから、二岐地区の湯治場として栄えた歴史と併せて、「癒やし」というキーワードが抽出された。

もともと、二岐温泉の観光客は温泉や食などの旅館の滞在自体を楽しむ方が多いと聞いている。非日常性を楽しみながらエンターテイメントとしての観光ではなく、「癒やし」を求めていることもうかがわれる。そのような観光客の方が、温泉で体を癒やししながら、周囲のヒーリングスポットを散策できるマップ制作に有効性を感じたものである。

地域散策マップの制作では写真撮影や取材が必要であることから、そこで得られたコンテンツをオリジナルポスターやSNSにも展開して、県内外に発信することも考えられる。

5.2. 提案② 地域イベントの運営支援

冬季の二岐地区は豪雪地帯となるため、観光客の減少や除雪作業に苦労されると聞いた。不便さの一方、雪を活かした地域活動として、「棚田イルミネーション」（湯本塾実行委員会）などが行われている。かつては積雪を利用して全長約3kmに及ぶ「ブナの森ソリすべり大会」を開催していたと聞いている。そり滑り大会は好評だったものの、旅館業の傍らに準備・運営することは大変な苦労があったようである。

地域行事やイベントは、地域のコミュニティ形成に有効であることから、その運営のお手伝いをしたいと考えている。

6. おわりに

3回の訪問を通して、二岐地区を知り、地域と役場のみなさんと交流することで、二岐地区は私たちにとって魅力的な場所となりました。そして、さまざまな価値や可能性に溢れた場所であることもわかりました。今後とも連携して、地域の活性化に繋がる活動に取り組みたいと考えています。

さいごに二岐地区のみなさん、天栄村役場、天栄村役場湯本支所のみなさんにはご多忙の中、調査活動にご協力を賜り、ありがとうございました。この場を借りて感謝申し上げます。